

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374400253		
法人名	医療法人光慈会		
事業所名	グループホーム第1ながしの里		
所在地	愛知県知立市長篠町新田東11-10		
自己評価作成日	平成26年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成26年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2374400253-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年 9月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ながしの里では春と秋に御家族と行く遠足を行い、夏は「夏祭り」冬は「クリスマス会&忘年会」を行っており、入居者、御家族、スタッフが共に楽しめる行事を行っています。毎月行う「誕生日会」では、地域のボランティアの方や近所の幼稚園の皆様が来所して下さい、地域の方々と接する機会を多く作っています。その他長篠地区の盆踊りや文化展などにも参加しています。庭には畑を作り入居者と野菜などを育て、収穫し調理しています。職員は年齢が様々ですが、それぞれが持つ経験や知識を皆で共有し日々のケアに反映しています。又それぞれの特技や趣味を活かしたレクリエーションなど実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームに対しての家族の思いが、家族アンケートに表れている。18家族中16家族より回答を頂き、多くの家族がホームの現状を理解して前向きに答えており、お任せな家族は見当たらない。回答内容もほとんどの家族が満足(やや満足も含む)の意志表示をしており、特に厳しい評価を受けがちな7項目『戸外への外出支援』では殆どの家族が満足・やや満足の回答を寄せている。自由記述も『義母や私達家族に取りましてもホームの全ての皆様にご縁頂ける事最高に幸せに思います。』等、116家族中の13家族が賛辞の言葉を寄せている。この事は、家族会・運営推進会議・家族来訪時に意見・要望をうかがい、丁寧に対応し、毎月の『便り』でホームの動き・利用者の近況を報告し、ホームの支援内容を家族が理解出来ている結果と思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい位置に掲げて、理念に基づいてケアを実践している。年一回新人研修で理念の研修がある。	法人の理念を基にホーム独自の理念『安心と尊厳』を謳い、玄関・事務所に掲示している。年度初めにホーム目標・個人目標を立て、年2回の個人面談で達成状況を報告し、管理者よりアドバイスを受けている。	個人面談で達成状況を確認する中で、達成度の評価が難しく思われる。達成度を容易に理解するためにも数値目標を掲げ、職員が達成感を味わう取組を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(盆踊り、文化展)に参加したり、公民館へ資源ごみ等を捨てに行っている。ホームの誕生日会や慰問などで、地域ボランティアや近所の幼稚園児を招いて、交流している。	地域の行事(盆踊り・文化祭等)に参加し、ホーム行事(誕生会・夏祭り等)に地域の方を招いている。幼稚園と『運動会へ招待』や『誕生会の来訪』等、双方向の交流をし、卒園時に利用者手作りの贈り物をしている。	認知症ケアや関わり等について地域の方々へ啓発する機会や相談を実施する等して、地域に向けた情報発信を行い、認知症の地域拠点としての役割を担って行く事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症について情報交換を行っている。地域で認知症予防の講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開き、区長、民生委員、市役所職員、家族、スタッフでホームの状況を伝え、意見交換をし、サービスに反映している。	出席メンバー、開催回数等軽減要件は満たし、活発な意見交換がなされ、防災訓練の際、参加家族より『家族としてもお任せするばかりだが、何か協力出来る事があれば行いたい。』等前向きな意見も出ている。	会議のメンバーにホームの主役の利用者が含まれていない。利用者の参加により、参加メンバーのホームの理解がより深まり会議がより充実される事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定の機会に市の担当者にホームでの生活を伝え連携している。困難事例があった場合、市に連絡をし、アドバイスを頂いている。	運営推進会議への地域包括支援センター職員の出席、介護相談員の受け入れ等によりホームの状況は役所窓口で良く理解されている。地域包括支援センターから老人会で、『介護予防の講和』依頼があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人が行う研修、ホーム内での勉強会にて学ぶ機会を持ち、意識統一を図っている。玄関の施錠は、夜間帯安全確保の為のみで、日中は解放している。	管理者は、意図せずに拘束となる行為を日々現場で指導している。玄関の鍵は夜間は安全確保の為施錠している。訪問当日も、外出しようとする利用者へ『靴がないで持つてくるネ』と声をかけ、その後庭を散歩している、利用者本位の姿を見る事が出来た。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人が行う研修、ホーム内での勉強会で学ぶ機会を持ち、意識統一を図っている。利用者の身体状況を把握したり、職員間で声を掛け合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の新人研修にて学ぶ機会をを持っている。必要あれば、制度について説明し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明をし、納得して頂いた上で契約している。又契約内容に変更があった際には、再度十分な説明を行い、同意書に署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて、家族同士で話し合う時間を持ち、出た意見を職員間で検討し出来るだけ運営に反映させるよう努力している。行事後アンケートを取ったり、意見箱を設置して家族の声が聞けるようにしている。面会時要望など伺っている。	家族会を2ヶ月に1回開き、個別面談の時間も設けている。家族の来訪時に意見・要望を聞いている。家族より、「計算・脳トレ・日記を書かせて」の要望に対し、個々に合わせたファイル(レク・ファイル等)を作成している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面談や、カンファレンスにて管理者と話し合う機会を設けている。月1回の月例会にて内容を報告し意見を反映している。	合同カンファレンスとユニット毎のカンファレンスを毎月実施し、随時開くショートカンファレンスでも職員の意見を聞いている。法人での人事考課会議の際、職員の不満が出ないように理解活動をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価表を記入後、ホーム長との面談があり、各自の思いを吸い上げている。年1回給料のベースアップがあり、慰安旅行がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を希望すれば受けることが出来る。2ヶ月の1回テーマを決め勉強会を行っている。新人には新人研修があり、その他の職員には現任研修を実施している。プリセプター制度の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西三河ブロック会議へ参加し、他施設との情報交換を行っている。知立市介護職員合同勉強会に参加し他事業所と交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学時、ホームの雰囲気を見て頂き、本人の不安や要望を話しやすいような環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様との面談や面会時、不安や要望を傾聴し、スタッフ間で共有し御家族と共に解決していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各サービスの説明をし、本人、御家族が理解された上で、望まれたサービスを利用出来る様支援に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	バックグラウンドを十分に理解し、本人の出来ることは見守り、困っていることは手助けし、本人の思いを尊重した支援を行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごと(夏祭り、遠足、忘年会等)の機会を設け、本人様、御家族様と共に過ごす時間を設ける。又家族会の実施。御家族様とケアカンファを行い、自宅への外出、外泊も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くのスーパーへの買い物。馴染みのある店への買い物。地域の行事ごとへの参加や(盆踊り、文化展、近所の散歩等)なじみある関係を継続出来る様努めている。	馴染みの場所として、弘法さん・墓参り・知立神社等を訪ねている。家族が頼んで馴染みの美容院を使っている。近くの八百屋さん、農協等で買い物をし、レジの人・近所の人に声をかけられる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や関係を把握した上で、話題やレクリエーションを提供し、他者との関わりが持てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談事があれば対応している。外でお会いした時も挨拶をし相談事があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や家族の思い、意向を把握し日々のケアにつなげている。又意思疎通が難しい方には、御家族にお聞きしている。	職員は利用者の隣に座り、つぶやき・しぐさから思いを把握している。目の動きをキャッチして『泊で行きたい』の呟きを家族に伝え、家族から『仙台の弟に・・・』の話をもらい、具体化に向けて検討が始まっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族様にバックグラウンドを記入して頂く。ケアマネージャーやソーシャルワーカーからも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化や気づきをカルテ裏面に記録し申し送りすることにより、情報の共有と現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の方から意向を伺っている。作成時は多職種からのアドバイスを頂き、作成している。	原案は居室担当者が作成し、計画作成担当者と協議し利用者にあった介護計画を作成し、カンファレンスで全職員で検討している。見直しは4ヶ月毎に行い、利用者に変化があった場合は随時行っている。	職員の経験年数による『力量』の差による介護計画内容の希薄・記入漏れ等が見られる。介護計画の研修・勉強会を行い、職員のレベルの足並みを揃える事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実践状況を記録し、情報を共有している。月1回カンファレンスを開き、その都度状況に変わりがあれば話し合い、現状に即して作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じ、近医院の往診をして頂いている。外部リハビリ等も臨機応変に対応している。御家族様の都合がつかない時は用事ごと(日用品の買い物等)は職員が行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店等の外出や宅配サービスを利用し暮らしを楽しむことが出来る様支援している。又地域の障害者施設との交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医に継続し、医療と連携している。往診も行っている。看護師が病院と電話、書面にて情報交換をしている。	入所後も馴染みの関係を継続するため、従来のかかりつけ医に家族が付き添い、通院の際は情報提供書を託している。かかりつけ医の往診も受け付け、現在6ヶ所のかかりつけ医が往診にきている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態に些細な異変であっても速やかに看護師に報告し、適切な処置を行う。緊急時はすぐ連絡が取れる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し、入院中も病院関係と連携して情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、かかりつけ医に相談し、御家族様と十分な話し合いを行い、ターミナルケアにつなげている。	主事医の指導の下、段階的に関係者の意向を確認し、主治医・看護師・家族が連携してターミナルに取組み、多くの経験をしている。当初は不安もあったが、経験する中で職員・利用者・家族・主治医の絆が深まって信頼関係が構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを常時目の届く所に設置しており、対応出来る様にしている。定期的に対応の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防訓練を運営推進会議の時に実施し地域との協力体制を整えている。又防災委員を中心に勉強会を行っている。地域の防災講座などにも参加し、防災意識を高め、地域との交流を図っている。	運営推進会議のメンバーを交え消防立ち合いの下、防災訓練を年2回行い、地域の防災訓練にも参加している。階段(従来はエレベーター)を使っでの2Fよりの避難を実施し、生活リハビリの必要性を感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを確保出来るように入浴や排泄など個別の対応を行っている。又一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている。初任者研修でプライバシーについて研修を行っている。	理念である『安心と尊厳』が職員間に周知されており、利用者に対して『人生の先輩として尊重』する姿勢で支援している。トイレ誘導・入浴支援時の言葉かけに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューやレクリエーションの参加、外出や入浴など出来る限り利用者の希望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて本人のペースを大切に、日々の活動を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝可能な方は自己にて、難しい方はスタッフが手伝って身だしなみを整えている。化粧品のある方は化粧をし、おしゃれを楽しんで頂いている。又好みの服を用品店にて買い物出来る様支援している。月1回出張美容室に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際野菜を切ったり、味付け盛り付け等それぞれ出来る事を行って頂いている。食事は楽しい話題を提供をし、食後の片付けも役割を持ち行っている。又季節の野菜を育て、収穫し旬の野菜を楽しんで頂けるよう支援している。	一人ひとりがゆったりと食事を摂り、職員が介助しながら一緒に食事をする温かい食事風景が見られた。後片づけを無理強いすることはなく、利用者の手慣れた動作から、利用者の自主性ややりがいを感じとれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの活動量や体重の変化、持病に合わせ、食事の量や形態にも気を付けている。水分もこまめに飲んで頂き、特に注意が必要な方には水分チェック表を用いて、不足の無いよう気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自己にて歯磨きをして頂き、磨き残しのある方は職員にて介助させて頂いている。義歯の方は週2回義歯洗浄剤にて清潔が保てるようにしている。希望により訪問歯科の利用も出来る。年1回無料にて歯科検診を往診にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	フローシートを活用し、排泄パターンを把握出来るようにしている。個々の排泄パターンに合わせた声掛けをし、トイレで排泄出来るよう支援している。	自立の利用者・定時誘導の利用者・見守りの利用者等、利用者に合わせた対応をしている。一人ひとりの排泄パターンを把握してのトイレ誘導により、リハビリパンツから布パンツ＋パッドに改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れ、食物繊維が摂取出来るように心掛けている。水分摂取を促し、水分不足にならない様気を付けている。又ラジオ体操やレクリエーション、家事、散歩など日中の活動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を基本とし、個々の体調や気分に合わせて支援している。同施設内のデイサービスでの機会浴が必要な方は午前中の入浴となっている。	入浴準備は毎日行い、毎日入る利用者もいる。季節に応じて菖蒲湯・ゆず湯等を取り入れ、入浴剤を入れると『きれいだな』と喜ぶ利用者もいる。職員と2人きりでの入浴は、内緒の話の聞ける貴重な時間である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調で休息が必要であれば、本人の思いを尊重し休んで頂くが寝たきりにならない様休息、活動のバランスを大切にしている。アロマなども取り入れ、気持ちをゆったりと過ごして頂く工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが処方箋を確認している。誤薬、飲み忘れ等の防止の為に服薬表のチェック、スタッフ内のチェックを確実にし、ダブルチェックを徹底している。異常など見られる時は、すぐに看護師へ報告し指示を受ける体制が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンド等活用し、少しでもその人らしい生活を送って頂ける様支援している。一人ひとりの方と接し、又日々の会話からその時々思いを知り支援できる様心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一日中室内で過ごす事のない様、中庭に行き庭の畑や花の水やりなども行い、役割を持って頂く支援を行っている。近所に弘法山、神社等あり馴染みある場所へ外出している。年2回家族様との遠足では遠出もしている。	日常的に体調を見て、弘法さん・神社等に出掛けている。車椅子利用者も含め、全利用者が万遍なく外出できる様に取り組んでいる。訪問当日も、窓から利用者が散歩して行きかう姿を見る事が出来た。年間行事として春の莓狩り、秋の遠足も企画されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より本人のおこずかいとして自由に使えるお金をお預かりする。買い物等で本人が欲しい物を買える様支援している。又本人がお金を持つ際は家族と協力し所持出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を毎年書き、出している。絵が好きな方は、絵手紙を書ける環境を整えている。又身内の方から手紙が送られてくる。希望があれば電話も利用して頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感、心地良さを提供出来る空間作りに努めている。トイレ、浴室等の扉には分かりやすい表示をしている。季節を感じてもらえる様、七夕やクリスマス等季節に合った飾りを入居者様と共に飾っている。	事務所・台所・居間に死角がなく、会話や見守りがし易い間取りである。台所からの匂いや音が感じられる居間は、家庭的な空間となっている。居間ではテレビだけでなく、昔を思い出す懐かしい歌謡曲やクラシック等、ジャンルを変えて楽しむ支援をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの思いや入居者同士の相性等も考慮し(席順など)少しでも共有スペースでの居心地を良くして頂く支援を行っている。無理じいせず居室で過ごしたい時は思いを尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個人の慣れ親しんだ家具が配置されている。御家族様の思いを尊重し、本人の趣味や思いでの物を配置している。	使い慣れた鏡台・筆筒・テレビを持ち込んだ居室、馴染みの装飾品、家族の写真の飾られた居室、畳部屋で自宅と同様に布団敷きの居室等、一人ひとり個性溢れる居室は生活歴そのものである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースに分かりやすい表示をしている。又居室にも分かりやすい掲示をしている。キッチンには何が入っている引出かを表示し自ら理解出来る様にしている。持てる力を発揮出来る様支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374400253		
法人名	医療法人光慈会		
事業所名	グループホーム第1ながしの里		
所在地	愛知県知立市長篠町新田東11-10		
自己評価作成日	平成26年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成26年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ながしの里では春と秋に御家族と行く遠足を行い、夏は「夏祭り」冬は「クリスマス会&忘年会」を行っており、入居者、御家族、スタッフが共に楽しめる行事を行っています。毎月行う「誕生日会」では、地域のボランティアの方や近所の幼稚園の皆様が来所して下さい、地域の方々と接する機会を多く作っています。その他長篠地区の盆踊りや文化展などにも参加しています。庭には畑を作り入居者と野菜などを育て、収穫し調理しています。職員は年齢が様々ですが、それぞれが持つ経験や知識を皆で共有し日々のケアに反映しています。又それぞれの特技や趣味を活かしたレクリエーションなど実施しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2374400253-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年 9月 2日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい位置に掲げて、理念に基づいてケアを実践している。年一回新人研修で理念の研修がある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(盆踊り、文化展)に参加したり、公民館へ資源ごみ等を捨てに行っている。ホームの誕生日会や慰問などで、地域ボランティアや近所の幼稚園児を招いて、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症について情報交換を行っている。地域で認知症予防の講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開き、区長、民生委員、市役所職員、家族、スタッフでホームの状況を伝え、意見交換をし、サービスに反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定の機会に市の担当者にホームでの生活を伝え連携している。困難事例があった場合、市に連絡をし、アドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人が行う研修、ホーム内での勉強会にて学ぶ機会を持ち、意識統一を図っている。玄関の施錠は、夜間帯安全確保の為のみで、日中は解放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人が行う研修、ホーム内での勉強会で学ぶ機会を持ち、意識統一を図っている。利用者の身体状況を把握したり、職員間で声を掛け合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の新人研修にて学ぶ機会をを持っている。必要あれば、制度について説明し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明をし、納得して頂いた上で契約している。又契約内容に変更があった際には、再度十分な説明を行い、同意書に署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて、家族同士で話し合う時間を持ち、出た意見を職員間で検討し出来るだけ運営に反映させるよう努力している。行事後アンケートを取ったり、意見箱を設置して家族の声が聞けるようにしている。面会時要望など伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面談や、カンファレンスにて管理者と話し合う機会を設けている。月1回の月例会にて内容を報告し意見を反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価表を記入後、ホーム長との面談があり、各自の思いを吸い上げている。年1回給料のベースアップがあり、慰安旅行がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を希望すれば受けることが出来る。2ヶ月の1回テーマを決め勉強会を行っている。新人には新人研修があり、その他の職員には現任研修を実施している。プリセプター制度の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西三河ブロック会議へ参加し、他施設との情報交換を行っている。知立市介護職員合同勉強会に参加し他事業所と交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学時、ホームの雰囲気を見て頂き、本人の不安や要望を話しやすいような環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様との面談や面会時、不安や要望を傾聴し、スタッフ間で共有し御家族と共に解決していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各サービスの説明をし、本人、御家族が理解された上で、望まれたサービスを利用出来る様支援に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	バックグラウンドを十分に理解し、本人の出来ることは見守り、困っていることは手助けし、本人の思いを尊重した支援を行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごと(夏祭り、遠足、忘年会等)の機会を設け、本人様、御家族様と共に過ごす時間を設ける。又家族会の実施。御家族様とケアカンファを行い、自宅への外出、外泊も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くのスーパーへの買い物。馴染みのある店への買い物。地域の行事ごとへの参加や(盆踊り、文化展、近所の散歩等)なじみある関係を継続出来る様努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や関係を把握した上で、話題やレクリエーションを提供し、他者との関わりが持てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談事があれば対応している。外でお会いした時も挨拶をし相談事があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や家族の思い、意向を把握し日々のケアにつなげている。又意思疎通が難しい方には、御家族にお聞きしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族様にバックグラウンドを記入して頂く。ケアマネージャーやソーシャルワーカーからも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化や気づきをカルテ裏面に記録し申し送りすることにより、情報の共有と現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の方から意向を伺っている。作成時は多職種からのアドバイスを頂き、作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実践状況を記録し、情報を共有している。月1回カンファレンスを開き、その都度状況に変わりがあれば話し合い、現状に即して作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じ、近医院の往診をして頂いている。外部リハビリ等も臨機応変に対応している。御家族様の都合がつかない時は用事ごと(日用品の買い物等)は職員が行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店等の外出や宅配サービスを利用し暮らしを楽しむことが出来る様支援している。又地域の障害者施設との交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医に継続し、医療と連携している。往診も行っている。看護師が病院と電話、書面にて情報交換をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態に些細な異変であっても速やかに看護師に報告し、適切な処置を行う。緊急時はすぐ連絡が取れる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し、入院中も病院関係と連携して情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、かかりつけ医に相談し、御家族様と十分な話し合いを行い、ターミナルケアにつなげている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを常時目の届く所に設置しており、対応出来る様にしている。定期的に対応の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防訓練を運営推進会議の時に実施し地域との協力体制を整えている。又防災委員を中心に勉強会を行っている。地域の防災講座などにも参加し、防災意識を高め、地域との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを確保出来るように入浴や排泄など個別の対応を行っている。又一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている。初任者研修でプライバシーについて研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューやレクリエーションの参加、外出や入浴など出来る限り利用者の希望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて本人のペースを大切に、日々の活動を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝可能な方は自己にて、難しい方はスタッフが手伝って身だしなみを整えている。化粧品のある方は化粧をし、おしゃれを楽しんで頂いている。又好みの服を用品店にて買い物出来る様支援している。月1回出張美容室に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際野菜を切ったり、味付け盛り付け等それぞれ出来る事を行って頂いている。食事は楽しい話題を提供をし、食後の片付けも役割を持ち行っている。又季節の野菜を育て、収穫し旬の野菜を楽しんで頂けるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの活動量や体重の変化、持病に合わせ、食事の量や形態にも気を付けている。水分もこまめに飲んで頂き、特に注意が必要な方には水分チェック表を用いて、不足の無いよう気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自己にて歯磨きをして頂き、磨き残しのある方は職員にて介助させて頂いている。義歯の方は週2回義歯洗浄剤にて清潔が保てるようにしている。希望により訪問歯科の利用も出来る。年1回無料にて歯科検診を往診にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	フローシートを活用し、排泄パターンを把握出来るようにしている。個々の排泄パターンに合わせた声掛けをし、トイレで排泄出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れ、食物繊維が摂取出来るように心掛けている。水分摂取を促し、水分不足にならない様気を付けている。又ラジオ体操やレクリエーション、家事、散歩など日中の活動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を基本とし、個々の体調や気分に合わせて支援している。同施設内のデイサービスでの機会浴が必要な方は午前中に入浴となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調で休息が必要であれば、本人の思いを尊重し休んで頂くが寝たきりにならない様休息、活動のバランスを大切にしている。アロマなども取り入れ、気持ちをゆったりと過ごして頂く工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが処方箋を確認している。誤薬、飲み忘れ等の防止の為に服薬表のチェック、スタッフ内のチェックを確実にし、ダブルチェックを徹底している。異常など見られる時は、すぐに看護師へ報告し指示を受ける体制が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンド等活用し、少しでもその人らしい生活を送って頂ける様支援している。一人ひとりの方と接し、又日々の会話からその時々思いを知り支援できる様心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一日中室内で過ごす事のない様、中庭に行き庭の畑や花の水やりなども行い、役割を持って頂く支援を行っている。近所に弘法山、神社等あり馴染みある場所へ外出している。年2回家族様との遠足では遠出もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より本人のおこずかいとして自由に使えるお金をお預かりする。買い物等で本人が欲しい物を買える様支援している。又本人がお金を持つ際は家族と協力し所持出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を毎年書き、出している。絵が好きな方は、絵手紙を書ける環境を整えている。又身内の方から手紙が送られてくる。希望があれば電話も利用して頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感、心地良さを提供出来る空間作りに努めている。トイレ、浴室等の扉には分かりやすい表示をしている。季節を感じてもらえる様、七夕やクリスマス等季節に合った飾りを入居者様と共に飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの思いや入居者同士の相性等も考慮し(席順など)少しでも共有スペースでの居心地を良くして頂く支援を行っている。無理じいせず居室で過ごしたい時は思いを尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個人の慣れ親しんだ家具が配置されている。御家族様の思いを尊重し、本人の趣味や思いでの物を配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースに分かりやすい表示をしている。又居室にも分かりやすい掲示をしている。キッチンには何が入っている引出かを表示し自ら理解出来る様にしている。持てる力を発揮出来る様支援している。		